



とっもろう便り

「令和の時代を迎えて」



30年余続いた「平成」の時代が終わり、「令和」という新たな時代が始まりました。変わることの重さ、またその中でも本質は変わらずに続けてゆくことが大切だと感じます。

初心を忘れず、「重い障がいがあっても、その人らしく地域で生活する」という理念に基づき、それぞれの方に合った支援を職員全員で考え共有し、提供させていただきます。

親たちがNPO法人を立ち上げ重度障がい者のグループホームを運営しているということで、今なお見学される方が後を絶ちません。それだけ注目を浴びていると考え、現状に甘える事無くこの先もしっかりと歩んでまいります。

最後になりましたが、当法人は補助金や助成金、寄付金や会費等のご協力が無ければ、運営が成り立ちません。ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げますと共に引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

理事長 浅石道夫

AEDを設置しました

グループホームとっもろうでは2018年秋に *azbil* みつばち倶楽部様からの助成金により、AEDを設置致しました、これを機に地域住民の皆様へお知らせし、施設公開の意味も含めてAEDの体験会を開催しました、当ホームのアドバイザーの看護師による救命措置に必要な基礎知識やその技術の指導を行いました。

いざという時に慌てずに救命措置を行うためには、日頃からの備えが大切です、今回は残念ながら少人数のご参加でしたが、また機会を設けて地域住民の皆様と交流を持ちたいと思います。

施設長 飛田 悦子



「ペガーボール」始めました～♪



ペガーボールとはどのようなスポーツなのか？簡単に説明しますとマジックテープでできたポンチョを着た人が鬼役、その鬼を追いかけてボールを当てて、より多くのボールを付けたチームが勝利です、ペガー (pegar) とは、「引っ付く、くっ付く」という意味で、ボールは柔らかい素材でできており安全性が保たれています（上の写真参照）、発達障害児のスポーツ指導から誕生したそうです。

当ホームの職員がこのスポーツを推奨している協会の役員で車イスの入居者でも楽しめるようにアレンジしました。まずは触って！投げて！くっつけて！剥がして！などを体験することから始めましたが、皆さん笑顔で鬼側も投げる側も楽しむことができました、初回から楽しむことが難しい方もいらっしゃいましたが、今後も継続して身体を動かす機会を作ってゆきたいと思います。翌日に通所のない金曜の夜に不定期ですが実施予定です。

尚、ペガーボールの用具一式は練馬区ペガーボール協会様から寄贈して頂きました。大切に使用させていただきます、ありがとうございました。

当ホームは医療的ケアに対応していることで、様々な分野から注目を頂いております。社会福祉法人日本肢体不自由児協会発行の『はげみ』2019年の2月3月号『新段階の医療的ケア』の特集にも掲載されました。

内容は当ホームの設立経緯、入居者の生活について、看護師及び支援員の入居者への関わり方（喀痰吸引については、研修済の支援員も実施）、医療的ケアのある入居者の日中の過ごし方などです。詳しくは是非ご購入ください。



見学者からのQ&A集

これまで多くの皆様にグループホームをご見学頂きありがとうございました。重度障害児者の保護者の皆様・特別支援学校の先生・行政の方々・障害者ご本人など立場は様々でしたが、特に多く頂いたご質問について、簡単ではございますがお答え致します。

Q：入居者はホームでどのように過ごしていますか？

A：入居者は日中、生活介護施設(福祉園、福祉ケアセンター)に通われています。ホームでは食事・入浴・排泄など生活全般で支援を受けています。自由時間は個々に部屋でテレビ視聴や音楽鑑賞で過ごす方もいれば、ホールで一緒に過ごされる方もいます。食事は一斉に楽しく召し上がっています。

Q：お風呂は週何回入れますか？

A：基本的に毎日入浴されています。

Q：食事は手作りですか？

A：調理員が手作りし温かい状態で、個別の食形態に対応して提供しております。

食材配達サービスを利用して無駄や廃棄を防いでいます。

Q：立ち上げの時の資金はどのように集めたのですか？

A：寄付金、NPOメンバーからの借入金、福祉医療機構からの借入金、東京都・練馬区からの補助金です。

Q：土地はどのように探しましたか？

A：借地です。地主さんのご理解とご協力でお借りすることができました。東京都からは借地の補助金もあり、とても助かっています。

Q：地域住民の理解はありましたか？

A：建設前には説明会を実施、竣工後には施設公開を行い、その後も地域交流行事(音楽会、AED体験会など)を開催しております。地域の皆様にはご理解を頂き温かいお言葉で励まして頂いております。地域で共に暮らしてゆくために今後も地域交流行事を続けてゆきます。

Q：看護師常駐で運営は成り立ちますか？

A：夕方から翌朝まで看護師がおります。練馬区から医療的ケア対象の方に、看護師加算を頂いています。この補助金を始めとして当ホームは利用料・給付費・寄付金・会費等で運営しております。

Q：人材確保はどうしていますか？

A：ご多分に漏れずそれが一番の課題です。多くは知人または職員からの紹介によるものですが、まだまだ介護職員と看護師が不足している状況です。現在、ハローワーク等で募集しております。

夕食の一例

- ・海南チキンライス
- ・ブロッコリーソテー
- ・ほうれん草の味噌マヨ和え



現場看護師インタビュー

Q：医師の居る病院と異なりグループホームで一番注意していることは？

A：医師がないということは責任も重大で、入居者さんの健康管理に常に注意しています。早期発見での感染対策や病気の予防など、支援員との連携で情報交換を行い細やかに観察しています。

Q：看護師同士の連絡はどのようにしていますか？

A：看護師の連携・情報交換は、専用の連絡ノートでこまめにしています。時には電話連絡などをして、常に情報を共有しています。

Q：体調不良などの変化で注意している点は？

A：言葉で上手く伝えられない入居者さんが多いので、少しの変化も見逃さないように表情の変化や行動を見極めていきます。

Q：内服薬や軟膏塗布などの外用薬で注意している点は？

A：医師からの処方箋及び看護指示書通り、用法・用量を守って誤薬の予防に努めています。

Q：経管栄養や痰吸引・浣腸・摘便なども含めた医療的ケアで注意している点は？

A：医療的ケアは病院で行う方法と同じ工程で適切に行っています。一処置一手洗いで清潔に行っています。

Q：保護者との意思疎通で心掛けていることは？

A：保護者の方の思いに耳を傾け、コミュニケーションを大切にしています。

Q：夜間帯に特に気を配っている点は？

A：夜間帯では発作などが起きていないか、呼吸状態・睡眠状況など、観察をこまめにしています。また、室温などにも配慮しています。

私は、とうもろろうに入職したことをとても嬉しく思っています。今後も家族のように家庭的で、帰ってきたくなるホームを目指して、支援員と手を取り合ってゆきたいと思います。

看護師 小島美砂



～賛助会員募集・ご寄付のお願い～

私たちの活動は皆さまのお力添えによって支えられています。

医療的ケアに対応するため、夜間も含めての看護師体制を維持してゆくには、私たちの力だけでは不十分です。当法人の目的にご賛同いただき、活動を支援して下さる賛助会員及びご寄付を募集しております。是非温かいご支援をお願い申し上げます。

お申込み：ホームページから書式をダウンロードし、メールまたはFAXにて事務局までお送りください。

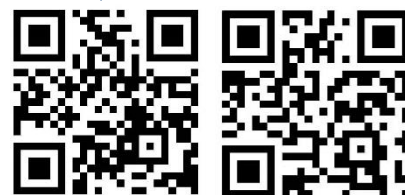
賛助会員 入会金 3,000 円
年会費 2,000 円

～職員大募集～

私たちとともにご入居者の笑顔を支え、ともに楽しさと喜びを分かち合う仲間を募集しています

ホームページ

メール



発行：特定非営利活動法人とうもろろう

〒176-0021

東京都練馬区貫井3-45-12

TEL:03-5936-6100 FAX:03-5936-6101

ホームページ (NPO 法人とうもろろうで検索！)

<http://www.npo-tomorrow.com/>